

洛北舟岡山ノ北麓ニ、大ナル墓一ツ立テリ、本多正重ノ墓ナリ、表ニ

元 蘇三丁巳歲

本多三彌左衛門尉

正重、法名道喜之墓

七月初三日

ト刻セリ、石川丈山ト熟魂ニテ、後ニ死ヌル者、墓ヲ建ツヘシト契リシトカ、書ハ丈山ノ筆ナレハ、其約ヲフミシナルヘシ、一乗寺村ノ墓ト相對スルモ、幽契ノアリシモノ、コトシ、

千本閣魔堂鐘銘

引接寺

鐘 康曆元年圓阿上人發願

同寺九重塔銘

至德三年月日

康曆ハ後圓融帝、至德ハ後小松帝ノ年號皆足利義滿將軍ノ時ナリ、

風外禪師自畫贊

洛北雲畑洞谷寺ニ、風外禪師ノ一幅アリ、奇古飄逸、其讚ニ

朦腫禪客愛殊勝。祖道爲傾不復興。可見當時黃檗老。天台山下

叱ニ神僧。

看讀眞詮榜

大德寺中眞珠菴ニ、看讀眞詮榜ノ一卷アリ、開山大燈國師ノ自筆、堂司宗鏡榜ト卷末ニアツテ、國師ノソレニ自筆ヲソメラレシナリ、其書ノ卓犖蒼古、千古ノ絶品、昔應仁ノ亂ニ、一休ノ江州ヘ落チラレシトキモ、是バカリハ打ガヘト云フ物ニ入テ、カヅイテ逃ラレシトナリ、其打ガヘモンヘテ、今ハ眞珠菴ノ什寶トナリテアルナリ、

眞珠菴

菴中ニ奥座敷アリ、茶室ニ連ナル、ソレハ半井瑞策、正親町天皇ノ御時、女御ヨリ拜領ノ間ヲ寄進セシナリ、其間ニカ、ル額モ、瑞策ノ支那ヨリ歸リシ折、携來リシモノ、由、



唐人ノ筆ナリ、通仙院ト名ツケテ、半井道三ノ孫ニアタルトソ、

山國常照寺

丹波國山國ト云フ所ノ常照寺ニ遊フ、コノ寺ハ光嚴帝ノ開基ナリ、帝ノ捨身抖擻ノ行脚シ給ヒシトキノ法衣法具、ミナ什寶トシテ寺ニ藏ス、ソレヲ拜見スルニ、落涙ニタヘサルモノアリ、法衣ナトハ、今ノ貧寺ノ住持ニテモ、カ、ルモノハ、着セサルナリ、開山堂ノ柱ニ、聯ヲカク、

鳥啣花落碧巖前、猿抱子歸青峰裏、

是ハ帝ノ公案ノ由、夢想國師ノ幅ヲミル、其語ニ

以レ色求レ我。以レ聲求レ我。是行邪道。不能レ爲レ佛。

又鄭嘉訓ノ書幅、誠拙ノ額、破沙盆、雪旦沙門ノ額竹林ヲミル、殊ニ結構言語ニ絶ヘタルハ、法華八卷ノ文字以テカケル羅漢ノ幅アリ、遠塵齋信清トアリ、何カ仙臺侯ノトヤラシ、和尚イヘトモ、詳カナラス、

石室玖和尚語錄

一卷

大德寺塔中龍源院ニアリ、和尚ハ貞治應安頃ノ人ナリ、錄中ニミエタル詩ハ、頗ル佳也、世ニ至テ稀也、余金陵和尚ヨリ借讀セリ、

海雲山聯額

洛西鳴瀧海雲山法藏寺ハ、百拙和尚ノ開基ナリ、和尚晚年茲ニ退隱セシナリ、正門ノ聯ナトハ、ミナ和尚ノ自筆ヲ刻セリ、正門聯ニ、衝開碧落松千尺、隔斷紅塵水一溪、開山堂聯ニ、萬里無雲、棒撥驀頭白雨、當陽獨露、窓開滿目青山、掛軸ニ、波弄月精神、座敷額ニ、無畏 白雲關 氷雪相看 遮半天、イツレモ百拙ノ書ナリ、

池 鯉 鮒

浪華鐵格子波丸カ革衣ニ云、此驛ハ木綿ヲ名産トス、東都ニハ此木綿ヲ池付白トイフトカヤ、又諸品ノ市アリ、中ニモ馬市ヲ以テ賑フ、毎年四月廿五日ヲ始トシ、五月五日ヲ終トシ、東ノ野ニコ、ハクノ馬ヲツナキ、遠近ヨ、ニツトヒ來リツ、ヨル晝ワカス市セリ、萬葉集ニ衣勻ハセ旅ノシルシニト長忌寸奧麿カヨメル引馬野モ、大カタ此所カト思ハル、眞淵ノ萬葉考ニハ、遠江ノ國トイヘレト、此國ノ御幸トイヒ、仙覺李吟ノ二老



モ三河ニテサシオキタレハ、オノレハ先此馬市場ト定メ侍リ云々、コノ革衣ハ狂歌ヲ旨トシタル東下ノ紀行ナリ、オモフニ頼朝公ノ名馬池付ハコ、ヨリ出タル馬カ、池付ハ池鯉鮒ノ池ノ字ト鮒ノツクリトヲトリテ付タル名ト見ユ、ソレヲ後ニハ字面ワロシトテ池月トシタルナルヘシ、

日比谷

昔東京ノ芝口ヘ潮ノサシタル頃、漁民海中ニ、枝竹魚朶ナトヲタテ、蠟類ノ生垣トセリ、之ヲ俗ニヒット云フ、今ノ地名日比谷ハ、之ニ由ルトソ、海苔ノ名産モ、コノヒバニ付テ生スルヨリ、漸次今ノ盛リヲ致セルナリ、

寺ノ山號

久遠院ノ本堂ニ、龍吟和尚ノ筆ニテ、中空山トイフ額ノアリシヲ九條玖山公御覽シテ、洛中ニハ山號ナキ物ナリトノ給ヒシヨシ、載恩記ニ見ユ、是ハアマリカタクナル説ナレトモ、洛中ナレハソノ理也、山號ハ洛外ニコソアルヘキナレ、コノ説ニテ昔ハ洛外ヲ世捨人ノ住所トセラレタルコト明カナリ、カノ本願寺ナトハ俗寺ナレハ、洛中ニ建タル、

論ノ外ナリ、玖山公ハ植通公ノ號也、恐シキ有職家ナリ、

帝城ノ滹

玖山公、京ノ惣堀ヲホラレシ時、帝都ニハ廻リニ堀ホラヌ物ナリト仰ラレシトソ、戴恩記ニ見ユ、ゲニモ此説ノ行ハレケルニヤ、今ニ京城ノ廻リニハ滹ナク、二城ノ廻リニハ滹アリ、是ニテ王霸ノ氣象ヨクミエタリ、

神璽

明治六年二月十二日、京都府知事長谷信篤、宮内卿ノ命ヲ秦藏六ニ傳ヘ、神璽鑄造ヲ命ス、秦氏上京、同月二十日、宮内省ニ到着、出仕奏任待遇調度司頭ノ指揮ヲ受ケ、先ツ神璽ノ模造ヲ苦心シ、我邦古印式ノ雞頭鈕ニ定メ、六十日間カ、リ、成工ノ上、内侍所ニ收ム、方三寸高三寸純金、重壹貫六百匁、鈕ノ周圍ニ鳳凰ヲ彫リ、篆書ニテ天皇御璽トアリ、安部樞堂ノ筆、朱印ニテ解明ナリ、又國璽ヲモ鑄造セシメラレ、大日本國璽ト刻ス、寸法重量、スヘテ神璽ニ同シト、防長教育ニ載セタリ、

神道學則日本魂 一冊



蓼蒼精舍文雄ノ撰、享保頃ノ書ナリ、既ニ日本魂ノ文字ヲ用タルコトヲ知ルヘシ、

講學鞭策錄 一冊

佐藤直方ノ編ナリ、貞享年間ノ刻也、

かはころもの記 二冊

革衣ノ記ハ、前ニモイヘル大阪鐵格子波丸ノ作、狂歌ヲ加ヘテ面白キ書也、上卷ノ書ハ中井籃江、下卷ハ丹波桃溪ノナリ、文化五年ノ刻、姪祐賢ノ序ニ、叔父波磨、夙ニ高逸ノ標アリ、又遠遊ヲ好ミ、遊ヘハ必記アリ云々トアリ、波丸ハ書モ書モヨクセシ人也、

化 醇

イポリューションノ作用ト云フコト、花生生存ノ上ニ行ハレ、美ハ存シ醜ハ亡フ、

高山階級

松柏帶 中腹 偃松帶 上層

鷓 鴒

肥後邊ノ海上ニ、ハギ高クロバシ長ク、少シ鼠色ニテ翼ニ白キ点紋アリ、舟人ニトヘハ、

シヤクトイフ、是ガシヤコナリト肥後ノ人イヘルヨシ西遊記續篇ニ云リ、

朝鮮ノ妓

朝鮮ノ妓ニ數種アリ、其名ノオカシケレハ、此ニ記ス、

第一 官妓 藝者ニ當ル者

第二 隱君子 妾ニ當ル者

第三 賞花室 娼妓ニアタル者

第四 蝸カクハ甫一名賣淫下類 淫賣婦ニアタル者

第五 色酒家 酌婦ニ似タル者

右ノ外ニ賣淫隱女ト云アリ、人家ニユキテ淫ヲ賣ル者ナリ、

米國ブライアン氏ノ立言

米國デモクラット黨ノ首領ブライアン氏云、公開演說ノ三得ヲイハンニ、第一ハ、學フト云フ心ニテスヘシ、第二ハ、極テ明瞭タルヘシ、第三ハ簡單ナルヘシ、又云、人生理想ノ極ハ、自己ヲ修メ、個性ヲ現ハシ、以テ他人ヲ助ケ、其人モシ死ナハ、



與黨ハ守勢  
ヲトリ、民  
黨ハ攻勢ヲ  
常ノ  
コトナリ、

社會ヲシテ白晝太陽ヲ失シタルノ感アラシムヘシ、  
又政黨ノ分派ヲ説テ曰ク、米國ニ在テモ、二大政派ノ分立ハ、正當ナリトス、一派ノ政  
權ヲ永ク占ルハ、公平ニアラス、時々交替スルヲヨシトス、蓋政黨ト云フ者ハ同一ノ政  
見ヲ永ク抱クモノニアラス、今日ノ進歩派ハ、明日ノ保守派ナリ、政府ヲ取レハ大抵ノ  
黨派ハ保守派ナリ、其位地ヲ去レハ、進歩派トナル、今日日本ニ來テ狎犬ヲミルニ、一ハ  
口ヲ開キ、一ハ口ヲ閉ツ、是ハバビロン地方ヨリ朝鮮ヲヘテ來タル者ナラン、此ハ數十  
年ノ經驗ニヨツテ、此積極消極ノ必要ヲ示シ、者ナルヘシ、今政黨分派ノ必要モ、此哲  
理ニ基ツク者ナリ云々、

俘虜解放ノ宣誓

佛國ノ法ニテハ、バロールト云、英國ノビーコンスフィールド伯、宣誓ノ定義ヲ、紳士ノ  
名譽ニカケテ誓フコト、シ、神ニカケテ誓フ必要ナシトテ廢シケルトソ、

陸軍大佐グドロイツ氏

征露ノ役ニ、ワガ俘虜トナリテ來ルモノ、中ニ、甚無狀ナルモノアリシ、其甚シキニ至

テハ、其身俘虜ニアラスト思ヘルモノ、如キモアリ、サレハ衣食ヲ強請シ、或ハ散歩ヲ  
許セト逼ルカ如キハ、怪シムニ足ラス、之ニ反シテ陸軍大佐グドロイツ氏ノ如キハ、誠  
ニ君子人ニシテ、此方ノ待遇ニハ、一言モ喙ヲ入レス、コナタヨリ命スルコトハ、決シ  
テ逆ハス、或ハ右ノ如キ不屈モノ、噂ヲキケハ、擧蹙シテ云、昔俘虜トナリシモノハ、  
首ヲ刎ラル、カ、或ハ奴隷トシテ苦役セラル、カ、コノ二ツノ外ニ出サリシモノヲ、今  
日ハ博愛ヲ旨トスレハ、サル虐待ハナケレトモ、俘虜ハ俘虜ナリ、優遇セラルヘキ身ニ  
アラス、サレハカナタヨリ與ヘントスル者ニテモ、會釋シテソレヲ辞スルガ禮ナルニ、  
之ヲ強請スルナトハ、以テノ外ノ不心得ナリト、彈指シテ係ノ人ニイヒケルトソ、松山  
俘虜記ニミエタリ、是ヲミレハ、イカナル蠻貊ノ國ト云フトモ、忠信ノ人ハアルモノニ  
テ、孔聖ノ言ハ後人ヲ欺カサルナリ、

陸軍中尉フエツテル氏

陸軍中尉フエツテルトイフ人モ、ユカシキ人ニテ、松山ノ俘虜所ニアル、性來鳥ズキト  
ミエテ、外ニ出ツルタヒニ、色々ノ小鳥ヲカヒキテ、籠ニ飼ヒケリ、朝オクレハ必先ツ



ソノ鳥ニ向テ、人ニ物イフコトク、ネンコロニ物イヒカハシ、ソノ啼聲ヲキ、テ、莞爾トシテヨロコヘルサマ、エモイハスヤサシクゾミエケル、シカルニ一日籠ヲ開キテ、ソノ鳥ヲ悉ク放チヤリケリ、カタヘノ人アヤシミテ問ケレハ、サレバノ事ナリ、此籠ハ是人屋也、コノ鳥ハ我カ身上ナリ、シカルニ貴國ノイト厚クモテナシ給ヘルニヨリテ、サシテ不自由モセス、ケフマテ安々トクラシケルハ、カ、ル有様ニモヤ似タラムカト、心ヲツケテ飼來リシ也、イツカナ放遣ルヘキ時モガナトマチケルホトニ、コノ頃仄ニキケハ、平和ノ約モナリヌトカヤ、サレハ我等モヤカテ許サレテ歸國ノ期モ、程アラジト思マ、ニ、カクハ放チケル也、今ヤコノ鳥ドモ、初テ自由ノ身トナリテ、杳冥萬里ノ空ニ遊ヌラント、カタリ出ツルヲキ、テ、カ、ルオソロシキ國ニモ此人アリト感セヌ者ハ、ナカリシトソ、イカサマ古人ノ籠ヲ開テ白鷗ヲ放チシニモ并セテ千古ノ美談トスヘシ、

スーホムリン女

スーホムリント云フハ、露國ノ陸軍中尉スーホムリンガ妻ニテ、日露ノ役ニ、旅順籠城中、比類ナキ働セシ女ナリ、初メ中尉ハ、旅順港ノ正面ニアタレルビリヒリーネ砲臺ニ、

三ツノ十一吋砲ヲスエ、四ヶ月間防キ守リシカ、不幸ニシテ彈丸ニ仆ル、シカルニ其砲門依然トシテ力ヲ失ハス、是ハイカニト人ノイブカリシニ、其妻ノ夫ニ代テ指揮セシ故ナリシトソ、此夫人コソ、ワガスラブ武夫ノ妻女ナレ、彼ノステツセル夫人ノコトキハ、夫ニス、メテ開城降服セシメタリ、コノ夫人トハ同日ニ語ルヘキニアラスト、ハヤーン艦長語リケルトソ、

軍人必讀ノ書

軍人必讀ノ書、古今數多シトイヘトモ、言簡ニシテ理ノ盡タルハ、支那ノ孫子素書ニ如クハナカルヘシ、素書ハモト兵書ニハアラネトモ、漢ノ張良カ黄石公ニ逢テ授カリシトイヒ傳ヘタル書ナリ、ソレハ僞ナルヘケレトモ、何サマ秦漢ノ僞書ニシテ、後世ノ書ニアラス、其言々句々、皆金言ナレハ、書ノ眞僞ハ問フ所ニアラス、心アル者ノ必一讀スヘキ書ナリ、分キテ軍人ノ心法トモナルヘキ語ノ多カルニ、今ノ世ニ讀ム人ノ少ナキハ口ヲシ、凡テ天下ノ事ハ、理器ノ二ツノミ、器ハ實ナリ、理ハ虚ナリ、虚ハ萬古ニ變セス、實ハ古今ニ變ス、故ニ器ハ世ヲフルゴトニ、改マリ、後ニ出ツルモノホト巧ナレハ、



孫吳ガ兵法トテモ、今日ノ兵法ニハ、何ノ用ヲモナサス、故ニ孫子ノ軍隊編制法ナトハ、支那ノ昔ニ於テスラ、既ク失セテ、漢書ノ、藝文志ニ、圖一卷ト僅ニ其名ヲ傳フルノミ、サレトモソノ十三篇ニ至テハ、千萬年ノ後マテモ傳ハリテ、佛國ノナポレヨン第一世サヘ、此書ヲ譯セシメテ讀ミシト云、圖ハ器ニシテ十三篇ハ理ナレハナリ、理ニ於テハ何事ニヨラス今人ノイフ所ハ大カタ古人言盡セリ、何ゾ必シモ後世白面ノ呶々ヲマタンヤ、且古賢ノ書ハ、要ヲ提ケテ煩ナラス、守リ易クシテ逸スルコトナシ、其書何トナク貴ケレハ、讀ミユクホトニ、オノレトソノ教ヲキク者ナリ、是イハユル温古ノ欠クヘカラサル所以ニシテ温古ノ力ナクハ知新ノ効モ少ナカルヘシ、イカテカ古書ヲヨマサルヘキ、マシテ素書ノ如キヤヤ、素書ハ今坊間ニ行ハル、ヲミルニ、徂來ノ國字解ナリ、南総ノ宇瀉水カ校訂シテ明和己丑ノ板刻ナリ、篇首ニ宋ノ張天覺カ序アリ、余カ文庫ニ一本アリ、徂來ノ解ヲ、柳澤侯ガ解トシテ、柳里恭ガ自筆ニ係ル、是ニハ張氏ノ序ナクシテ侯ノ自序アリ、按ニモト柳澤家ニテ板刻スルツモリナリシヲ、イカナル都合ナリケン、遂ニ開板ニ至ラス、其中ニ時代モカハリ、柳澤侯モ徂來モコノ世ヲ去ラレケレハ、瀉水ヤ

ガテソノ實ヲアラハシテ、徂來先生ノ著ト題シテ世ニ公ニセシナルヘシ、侯ノ序中ニ、余カ家ニ舊ト源廷尉ガカキシ素書ヲ一卷藏セリ、既ニ嫡子吉里ニ授ケ、更ニソノ意ヲ解シテ、假字ニ寫シテソレニ副ヘタリトアリ、カクノ如ク我邦ノ武將ニテ兵術ニ精カリシハ、中古ニテハ源廷尉、近古ニテハ楠正成ナルヘシ、廷尉ニシテ既ク此書ヲ帳中ノ秘トセラレタル、ソノ兵理ニ精カリシモサルコトナルヘシ、只廷尉ノミナラス、古ノ經世ニ志サシ、人ハ、皆此書ヲ精讀セリ、今ノ軍人歐米ノ新書ヲヨマンハ、固ヨリナレトモ、和漢ノ書中ニテ素書ノ如キヲヨム人ノ少ナキハ粗ナリト云フヘシ、總シテ今ノ人ハ此ヤウノ書ヲヨミテ心法ト云フモノヲ立サルカ故ニ、ソノ心術ナヘテ陋<sup>ツタ</sup>ナシ、遺憾ナルコト、モナリ、由テ先此書ノ解題ヲシテ世ノ未タシラサル人ニ紹介スルナリ、余京都ノ府學ニ在勤ノ折、伏見ノ第三十八聯隊長小川賢之助氏ヨリ、電話ニテ余ニ聲ヲカケラル、何事ヤラン知ラサレトモ、御用トアラハ電話ニテ承ハルヘシトイヘハ、少々御願アリ、手隙ノ時ヲ承ハリテ參上申スヘシトアリ、依テソノ時間ヲ申ケレハ來校アリ、キケハ聯隊ノ將校集會所ニ於テ、毎月一回修養談アリタシトノ事ナリ、余ソノ人ニ



アラスト辞ミタレトモ、聽サレズ、ヨツテ參リシカ、右ノ書ヲ談シケレハ、早速謄寫版ニ何十部トスラセテ、將校ニ配付シ、ソレニ就テ色々講話ヲ進メタリ、ソノ比ハ、山田虎雄少佐ナトノ熱心ナル人々多ク、イツレモ一回ノ缺席ナク聽講アリ、オノレモ之ニ勵マサレテ、時間ヲカ、サス參リ、聯隊長ト相對シ、午餐ヲサヘ與ニセシコトシバ、ナリシカ、一年ハカリニテ、東宮侍從武官長ニ轉セラレシホトニ、コノ會モ遂ニ閉ツル事トハナリス、聯隊長ハ今ノ世ニマレナル儒將ニシテ、余圖ラス其知遇ヲエタリ、シカルニ道ノ行ハル、難イカナ、幾ハクモナク病歿トキ、余慟哭シテ詩ヲ賦シ、靈前ニ送リ供ス、其詩ヲ左ニ録ス、

嗟賢哉公也。實不負其名。余得其知遇。能知其英明。仕上致其節。愛下推其誠。選良以獎士。講道以行兵。人存其政舉。人亡其政傾。公來正氣奮。公去鄙情萌。蘭悴而玉碎。由來不足驚。唯公而短命。誰人不吞聲。聞訃失匕箸。賦詩報平生。不知甲觀內。親賢若爲情。

寧一山書

紫野孤蓬菴什寶中ニ寧一山ノ書一幅アリ、ソノ詩

歸人乘野艇。帶月過江村。正落寒潮水。相隨夜到門。

寧一山書

其書モ高古、多クソノ比ヲミズ、

鍊句

韓文進學解ノノ句ヲトリテ、額ニカキ、或ハ書名ニシタル古人ノ例、イト多シ、其事、拙堂文話ニ拈出セリト覺ユ、今余陶集ニツイテ鍊句ヲトリ出シテ書ヲカク時ノ便ニ供ス、

期在必醉 不忝去留 忘懷得失 樂志 寄傲  
雲無心 孤往乘化 心遠 林盡得山 人境無喧  
怡然自樂 山氣夕佳 眞意忘言

近古儒者死亡年齡

元龜天皇ヨリ天保四年マテ、凡二百五十年間ノ名儒カ年齡ヲミルニ、百三十人ノ中、栗山潜峯三十六、羽倉在滿四十、是尤短命、加藤直枝九十四、西依成齋九十六、江村專齋



百餘、一ノ井鳳梧百十六、實ノ年不詳、是尤モ長命、其中尤多ク亡セシ年ハ、七十二一人、七十三一人、其他ハ各一人ヨリ六人マテトス、其表如左、

- 三十六一、四十一一、四十一一、四十五一、四十八一、五十一一、五十三三、五十四一、五十五一、五十六三、五十七二、五十九一、六十四、六十二一、六十三二、六十四三、六十五五、六十六一、六十七四、六十九五、七十三、七十一一、七十二一、七十三八、七十四九、七十五五、七十六六、七十七二、七十八四、七十九五、八十四、八十一一、八十二二、八十三四、八十四一、八十八二、八十九二、九十二、九十四一、九十六一、百一、百十六一、

坐禮

人ニヨハレテ、宴席ニ就ク、必背後ヲ人ノトホルニサハラザルホトニシテ、座スヘク、ソノ他ノ席ニテハ、後ヲアケスニ坐スルカ禮ナリ、禮記ニ、虛坐盡後。食坐盡前ト云フハ、是ヲ云也、

聲咳

人ノ家ヲオトナフ時ハ、先セキバラヒシテ、家人ニ人ノ來タルヲシラシムヘシ、窃ニ入ルハ犬也、ヌス人ナリ、禮記ニ、堂ニ上ラントスルトキハ、聲ヲ必揚グト云ル、味フヘシ、

食樂

今ノ世ニ食事ヲスル時ニ、樂ヲ奏スルハ、西洋ノ俗ヲマネタル也、昔支那ニモ此事アリ、禮記ニ、民無菜色、然後天子食、日舉以樂トアリ、人樂メハ食慾ス、ム、樂ヲ奏スルハ、食慾ヲス、ムル爲也、獨啖ヨリモ會食ノ甘キモコノ理ナリ、

環翠園茶會

- 客 臣佐武君 黒本植君 木下重三君 相澤仁平君 北岡健八君

道具付

- 懸物 高泉畫賛 釜 清巖好
- 茶入 丹波 茶碗 高麗紋御本
- 茶杓 三齋公御作 水指 古銅



花入 宗和老作

花 八重白 山茶花

北白川宮殿下拜領

炭斗 金網代 香合 薩摩

羽帚 鶴 蓋置 高取

雫 曲

會 席

向 あけふ 壽のり大豆  
おろし大根 柚かは 飯

引而

中 酒

挾肴 わさひ蓮根 焼栗  
串芋 椀 かぶふる吹

茶碗 葛いも 平茸  
青み 小皿 こんにやく 耳茸  
ぎんなん 白あい

吸物 松茸 水前寺のり 湯 香ノ物 手作漬菜

菓子 饅頭 最氷豆腐

後 菓子 まほろし

茶 松尾詰 緑の白

右以上

明治三十一年十二月九日

鼎泉院追善茶會

環翠軒

奇 縁 一

物ハスヘテ因縁ナリ、一日宿ノ子ヲツレテ、淨光寺ニユキテ、池大雅堂ノ墓ヲスリテ歸  
ラントスル程ニ、寓居ノ主人モ來リ、寺ノ住職トカタリケルニ、住職茶ヲ參ラスヘシ、  
是ヘトイフマ、ニ、入レハ床ニ大ナル奇石アリ、其室ニモ一個ノ奇石アリ、是ハイカナ  
ト問ヘハ、愚僧カ父一年愛宕山ニ登リシニ此石アリ、拾來テ愛シケレハ、今ハ遺愛ノ一  
品ト、座右ニオクナリトイフ、僧ノ首タレテ座セルサマ、ヨクミレハ目鼻モアルヤウニ  
見エテイトオカシ、床ノ石ハト問ヘハ、是ニハオカシキ話アリ、或日備賃<sup>ヒヤウチン</sup>トリアリ、サ



ル家ニ頼マレテ庭仕事ニユキケルニ、此石アリ、ソノ者石好ニテ、此石下サルマシクヤ  
トイヘハ、ホシクハ遣ハスヘシトイフ、然ラハ今日ノ日傭ハ、イタ、クマジトテ、昔ノ  
日傭賃ナレハ五錢カ拾錢ノ代ニ、ソノ石ヲモラヒテ持歸リシカ、一時ハ物ズキデモラヒ  
シカトモ、餘リノ重サニタヘカネテ困リ居ル所へ、當寺出入ノ人、是モ石好ナルガ通カ  
、リ、ソノ石ヲミテ、貴公ソノ石ヲウリテクレスヤトイヘハ、右ノ始末ヲカタリ、大ニ  
困リ居ル所ナリ、何トソ買テタモレ、日傭ノ代ニモラウテ來タル石ナレハ、ソノ代ニテ  
宜シウゴサリマストイフマ、ニ、カヒキタリシカ、是人モ持扱ニコマリ、ハテハ漬物ノ  
重シニシタリシテ居ルヲ、愚僧ソノ家ニユキシ折、アノ石ヲト頼ミケレハ、御用ナラハ  
持參スヘシトテ、ワサ／＼持來テクレタルナリト語ル、ソノ石ヲ一問隔テ、ミルニ、阿  
ミタノ後光ノヤウナルモノ後ニアリテ、ソノ前ニ禪師ノ曲祿ニヨリ、シツ柄ヲタテ、一  
喝セルサマ、サナカラミエテ尊トク覺ユル甚シキ靈石ナリ、亡父ノ遺愛ヨリ、石ニ心ツ  
キ、ソレヨリ人ノ石ニ目ツキ、一ツハ二ツトナリ、奇ハ靈ヲ招ク、スヘテ是因縁ナリ、

奇縁二

是ニ尙オカシキハ、墓原ヲミレハ、石佛彫シクアルガ中ニ、ソノハナレタル首ヲ一ツ  
ト所望シケレハ、イクラモ持歸ヘラレヨトイヒツ、タチイデ、墓原へ同道シケレハ、  
是ヲトイヒテ地藏ノ軀ニ、大日如來ノ首ノヤウナルヲ載テ有ケルヲトリ、手ニ握リツ  
、奥ノカタヘユキ、アラヌ方ヲ巡ルホトニ、宿ノ子モ來テ、是カソノ首ノ躰ニテモヤナ  
カランカトイヒツ、一ノ石軀ノ首ナキヲサス、サテハト合セミルニ、ハタトアヒケリ、  
全クソノ軀ノ首ニテアリシガ、ハナレテ無縁塔ノ中ニ投入ラレテ、サテ地藏カ軀ニノセ  
タル者ノアリシナリ、サテ／＼奇縁ナルカナト、ソノ軀ニ載テモラハス歸リケリ、ミナ  
／＼興ガリテ、今日茲ニ來スハ此佛モ永ク頭軀ヲ異ニセン物ヲト感スルコト限ナシ、

奇縁三

今一ツオカシキハ、右無縁塔ヲアツメタル中ニ、一ツノ墓アリ、ソノ蓋ヲミルニ、蓮ノ  
葉ヲウツムケニシテ、ソノ條ヲ浮ボリニシタル、中々手ノカ、リシモノニシテ、古色蒼  
然、露次ナトニ立テ、キツト詠メラル、石ノ躰ナリ、ソノ石ニ宿ノ主人目ヲツケ、不用  
ナラハ所望シタシト取出テ、ミレハ、年號モ名モ彫付テアリ、ミレハ寛文何年淨光寺十



六世淨譽トアリ、扱ハ祖師ノ塔ニテアリケルヨト、和尚モ驚キテトリアケ、是モアラハ  
 レテ寺ニ据置ク事トナリタルハ、目ヲツケシ故ナリ、一ツ二ツノ中デハナク、二十三十  
 ノ頭ノカケタル石軀ノ中ニ、ハタトアヒタルモアレハ、エリ出シテ祖師ノ塔トシレタル  
 モアナルハ、誠ニ奇縁トイフモ疎ナリ、カクミレハ、物ハ因縁ニヨリテ、ソノ好ム所ニ  
 アツマルコトモ知ラレヌヘク、又アル人ノ手ニカ、ツテ、モトノサヤニヲサマリ、納メ  
 シモノモ、亦是ニヨリテ縁ヲ結フナリ、有難キハ此因縁ノ功德也、歸ル時別ニ一ツノ首  
 ヲモラウテ歸リシカ、是モイカナル縁ヲ結フヤラント、頼モシク覺ユルナリ、

156  
113

昭和七年八月二十五日印刷  
 昭和七年九月五日發行

著者 黒本 植

印刷者 林秀松

印刷所 林兄弟印刷所

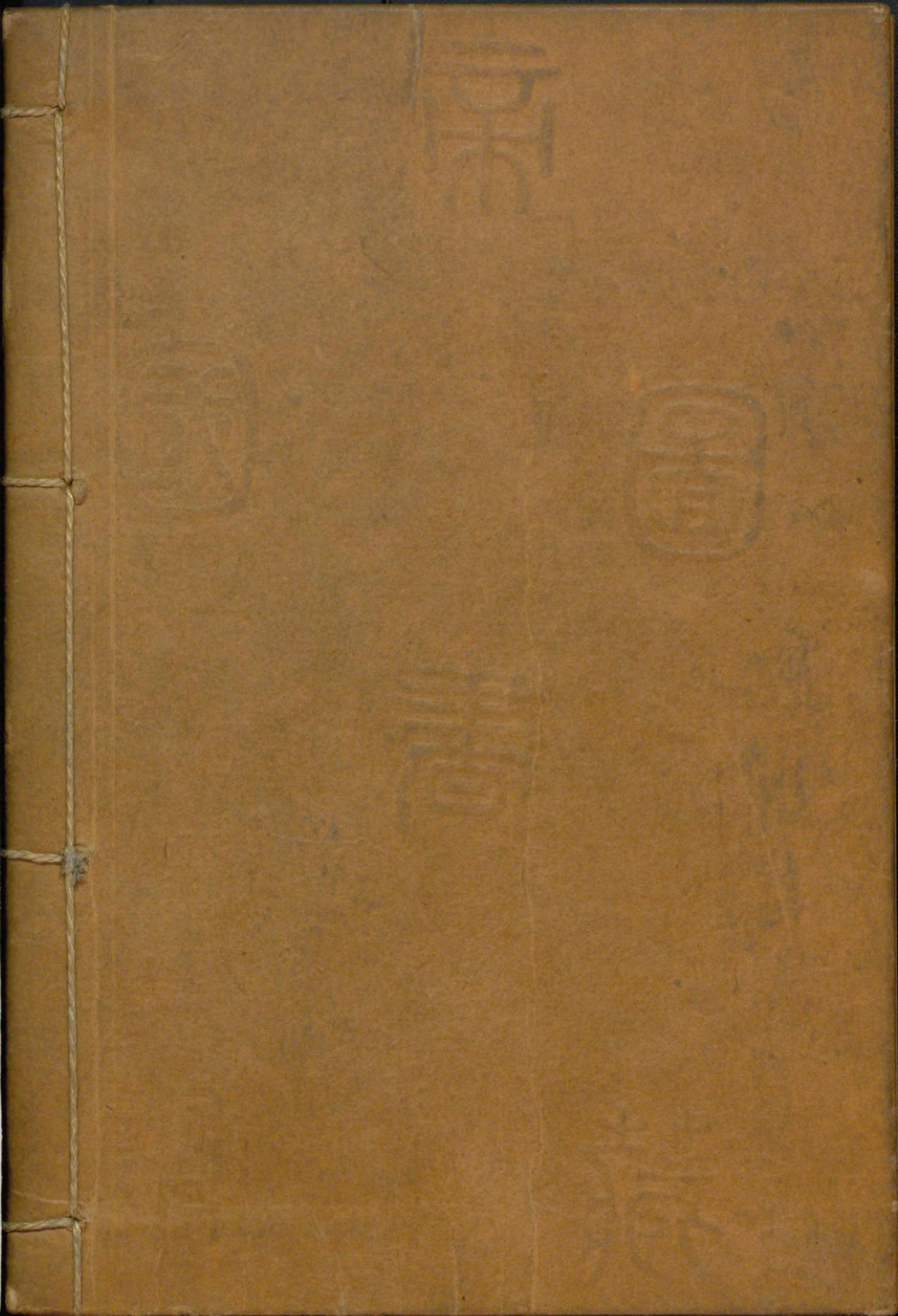
發行所 稼堂叢書刊行會

金澤市長土塀通廿二番地  
 金澤市下本多町三番丁九番地



156  
113





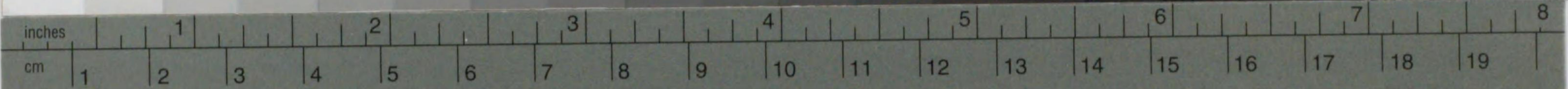


# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

**A** 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

